

## 平成24年度第1回流山市史編さん審議会会議録

- 1 日時 平成24年11月7日（火）  
午後1時30分から午後3時5分まで
- 2 場所 中央図書館会議室
- 3 出席者等  
審議会委員  
小川浩会長 大出俊幸委員 小疇尚委員  
下津谷達男委員 清藤一順委員 堀部昭夫委員 村田一二委員  
山田友治委員 直井英樹委員  
欠席：相原正義副会長  
事務局  
友金生涯学習部長 鈴木図書・博物館長  
須田図書・博物館次長 小栗学芸係長 川根主任学芸員  
廣瀬臨時職員 堀野臨時職員 橋本臨時職員  
欠席：後田教育長  
傍聴者 なし
- 4 議題
  - (1) 平成24年度上半期流山市史編さん事業実績について
  - (2) 『流山の歴史』の書名の変更について
  - (3) 「第3章中世」の原稿について

### 《委嘱状の交付》

(須田次長)

本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

初めに、流山市史編さん審議会委員の委嘱状を交付いたします。

委員名簿の順番でお名前をお呼びしますので、その場で御起立いただき、部長から交付したいと思います。なお、名簿は五十音順となっておりますので、御了承願います。

## 「部長から委嘱状交付」

《開会》

(須田次長)

それでは、ただいまから、平成24年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。

本日、司会進行をさせていただきます、図書・博物館次長の須田でございます。よろしく願いいたします。

会議の開催に先立ちまして、本日配布している資料を確認させていただきます。

まず、会議次第及び会議資料1部と委員名簿1部を、お手元に配布させていただきます。

また、「平成23年度流山市立博物館年報」及び「2012年度博物館のご案内」リーフレット、先日の発掘現場見学会の資料を各1部配布させていただきます。これらについては、御参考にしていただきたいと思っております。

それでは、次に進めさせていただきます。

本審議会は、平成24年度になり初めての会議の開催となりますので、図書・博物館長から職員の紹介をさせていただきます。鈴木館長お願いいたします。

(鈴木館長)

皆さん こんにちは。

ただ今、御紹介いただきました図書・博物館長の鈴木でございます。

本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。本年度、第1回目の審議会の開催となりますが、よろしく願いいたします。

私からは、職員の紹介をさせていただきます。

- ・はじめに、生涯学習部の友金部長でございます。
- ・本日司会をしております図書・博物館の須田次長でございます。
- ・事務局で学芸係の小栗係長でございます。
- ・同じく、川根主任学芸員でございます。
- ・同じく、事務局の橋本でございます。
- ・仮題『流山の歴史』の執筆を担当しております廣瀬でございます。
- ・同じく、堀野でございます。
- ・私、事務局長の鈴木でございます。

以上、職員を御紹介させていただきました。

なお、事務局から1点お願いがございます。本市の審議会は、会議録を市のホームページで公開することになっておりますことから、会議録作成のため、会議を録音させていただきますことを、お許しいただきたいと存じます。それでは、御審議の程よろしくお願いいたします。

(須田次長)

それでは、次第に添って進行させていただきます。

流山市教育委員会生涯学習部友金部長から御挨拶を申し上げます。

部長よろしくお願いいたします。

(友金部長)

本日は公務御多忙の中、平成24年度第1回流山市史編さん審議会に御出席をいただき、有難うございます。

本来であれば、教育長から御挨拶を申し上げるところでございますが、教育長は本日所要で欠席をさせていただいております。代わりまして、私から御挨拶を申し上げます。

日ごろ委員の皆様方には、本市の教育行政はもとより、市政全般にわたり多大なる御協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、本日の会議でございますが、皆様方には市史編さん審議会委員を新たに委嘱させていただきましたので、まず会長及び副会長の選出をお願い申し上げます。

続きまして議事でございますが、一つ目といたしまして、平成24年度上半期流山市史編さん事業の実績について、事務局から御説明申し上げます。

また、二つ目といたしまして、仮題『流山の歴史』の新たな書名を事務局から提案させていただきますので、御審議をよろしくお願いいたします。

そして、議題の(3)で、仮題『流山の歴史』の「第3章中世」の原稿をお示しいたしますので、委員の皆様方に充分御審議いただき、御意見を賜りたいと考えております。

最後に、委員皆様方の御健康と御活躍を御祈念申し上げ、簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。

(須田次長)

ありがとうございました。次に、流山市史編さん審議会委員に委嘱されました、皆様の御紹介をさせていただきます。名簿順に述べさせていただきます。

#### 《委員紹介》

##### 1 相原正義(あいはら まさよし)委員

本日はお休みでございますが、流山市向小金にお住まいで、現在、聖徳大学・中央学院大学で講師をなさり、また地理教育研究所所長をされていらっしゃるようです。御専門は地域史で、東葛地区を題材にした著書を執筆されております。

市史編さん審議会委員は、2期目でございます。

##### 2 大出俊幸(おおで としゆき)委員

流山市中野久木にお住まいで、流山市立博物館友の会運営委員でございます。元新人物往来社の社長で、編集長も長らくお務めになり、新選組関係などの書籍を1,000冊以上出版されております。また、「因島自由大学」「新選組友の会」などを主宰なさっています。

市史編さん審議会委員は、新任でございます。

##### 3 小川浩(おがわ ひろし)委員

野田市中里にお住まいで、現在昭和女子大学の講師をされております。御専門は、民俗学・風俗史でございます。民具等にも造詣が深く、流山市文化財審議会委員もされていらっしゃるようです。

市史編さん審議会委員は、6期目でございます

##### 4 小疇尚(こあぜ たかし)委員

流山市江戸川台にお住まいで、明治大学文学部で長らく教鞭を執っておられ、現在は明治大学名誉教授でいらっしゃいます。御専門は、自然地理学・地形学で著書も多数執筆されています。

市史編さん審議会委員は、2期目でございます。

5 下津谷達男（しもつや たつお）委員

野田市上花輪にお住まいで、元國學院大學女子短期大学教授でいらっしゃいます。また長く野田市郷土博物館の館長をなさっていました。御専門は考古学で、文化財審議会では本市の他、野田市・鎌ヶ谷市などでも委員をされています。柏市史や鎌ヶ谷市史の編さんにも携わっておられます。

市史編さん審議会委員は、14期目でございます。

6 清藤一順（せいどう かずのり）委員

柏市大津ヶ丘にお住まいで、元千葉県立中央博物館の自然誌・歴史研究部長をされており、現在は八千代市立郷土博物館長でいらっしゃいます。御専門は、考古学です。

市史編さん審議会委員は、3期目でございます。

7 堀部昭夫（ほりべ あきお）委員

東京都葛飾区にお住まいで、元千葉県立現代産業科学館副館長でいらっしゃいますが、県立博物館の4館で館長を歴任されております。御専門は、考古学です。

市史編さん審議会委員は、7期目でございます。

8 村田一二（むらた かずに）委員

鎌ヶ谷市にお住まいで、我孫子市・鎌ヶ谷市・流山市などで小中学校校長を歴任されております。御専門は原始・古代です。

鎌ヶ谷市史編さん審議会副委員長で、市史の執筆も手がけていらっしゃいます。

市史編さん審議会委員は、4期目でございます。

9 山田友治（やまだ ともはる）委員

東京都江東区にお住まいで、元文化庁調査官・元東京工芸大学教授でいらっしゃいます。本館がまだ郷土資料館開設準備室の時期に出向され、館の設立に携わっていただきました。御専門は考古学ですが、陶磁器をはじめとする有形文化財や芸術・文化に造詣が深くていらっしゃいます。

市史編さん審議会委員は、4期目でございます。

## 10 直井英樹（なおい ひでき）委員

流山市教育委員会生涯学習部次長でございます。

市史編さん審議会委員は、2期目でございます。

（須田次長）

以上でございます。ありがとうございました。

次に、今期は1名の方が新任されておりますので、全委員の皆様方から自己紹介をお願いしたいと存じます。恐縮でございますが、名簿順に大出委員からお願いいたします。

《委員自己紹介》

### 1 大出俊幸

昭和12年生まれです。京都大学を出て因島の中学校に勤務、日本読書新聞、学芸書林、新人物往来社を3年前に退社しました。新選組友の会を40年続けています。近藤、土方の慰霊祭をやっています。1000冊近い本の企画、編集に携わりました。

### 2 小川浩

民俗学、特に民具が専門です。中国との比較研究をしています。来年も1年間研究予定です。流山市に寄与できればと思っています。

### 3 小疇尚

大学では文学部史学地理学科で教鞭をとりました。歴史とは隣接した分野で自然地理が専門ですので人間とは直接関係ありませんが、人間と一番近いところでは氷河期の日本の自然環境はどうであったか、ということの研究してまいりました。

### 4 下津谷達男

私が一番長いですね。流山市との関係は学生時代からです。古墳を中心に研究しております。埼玉大学、國學院大学、和洋女子大学、日本大学、駒澤大学で博物館学を教えてまいりました。最終的には國學院大學栃木短期大学で、博物館長をやめてからは考古学が中心です。

### 5 清藤一順

平成20年3月に中央博物館を退職、その後再任用で中央博物館に勤務した後、昨年1年間発掘現場に従事しました。今年4月からは八千代

市立郷土博物館におります。

#### 6 堀部昭夫

御紹介頂いたとおりです。ずっと歴史系の博物館にいましたが最後に科学系の博物館に勤務しています。とにかくむずかしいです。昨年体調を崩し長期入院しまして欠席をし御迷惑をかけました。

#### 7 村田一二

考古学が専門ですが、東葛地域で教員をしておりましたので、義務教育との関わりから審議会委員として委嘱されたのだと思います。最後は江戸川台小学校です。市史関係では現在、下津谷委員と鎌ヶ谷の市史編さんに携わっております。

#### 8 山田友治

愛知県出身で関東とは縁がなかったのですが、文化庁におりました時に、成田空港の発掘で10年間千葉県に出向していました。その間に流山に博物館が出来るということで1年半携わりました。その後文化庁へ戻ってからは考古学より芸術文化の仕事、大学では博物館学を教え、現在は聖徳大学で文字学の教鞭をとっております。

#### 9 直井英樹

昭和53年に入所しまして、市役所と教育委員会を行ったり来たりしています。

(須田次長)

ありがとうございました。

続きまして皆様の中から、会長・副会長を選出していただきたいと存じます。議事進行は会長が行いますが、会長・副会長ともに不在の状態でございますので、事務局長である鈴木館長が議長を代行いたします。

鈴木館長よろしく申し上げます。

(鈴木館長)

議長を代行させていただきます、鈴木でございます。よろしく申し上げます。

それでは、議事に従い会長・副会長を選出したいと思っております。立候補または推薦により決定したいと思っておりますが、委員の方から何か御意見はありますでしょうか。

(清藤委員)

引き続き、会長には小川委員、副会長には相原委員をお願いしたいと思いをします。

(鈴木館長)

ただ今、清藤委員から発言がありました。他にございますでしょうか。無いようですので、お諮りします。会長に小川委員、副会長に相原委員の推薦がありましたが、承認される方は拍手をお願いします。

拍手多数と認めます。

それでは流山市史編さん審議会会長に小川委員、副会長に相原委員が決定いたしました。

ここで私は、議長の役目を終わらせていただきます。

(須田次長)

鈴木館長、ありがとうございました。新会長は、議長席へ移動ください。

「流山市史編さん審議会条例」第6条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは新会長に進行をお願いいたします。

《会長挨拶》

それでは任命頂きましたので、議事を進めさせていただきます。

(小川会長)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

(小栗係長)

本日の会議につきましては、委員10名のところ9名様のお出席をいただいておりますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項により会議が成立している事を申し添えます。

(小川会長)

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。

議題(1)平成24年度上半期流山市史編さん事業報告について、事

事務局から説明願います。

(小栗係長)

「平成24年度上半期事業実績について」説明  
別紙資料のとおり

(小川会長)

只今、事務局より説明のありました平成24年度上半期流山市史編さん事業実績について、御意見のある方はいらっしゃいますか。

(小川会長)

では、私から質問します。史料の収集・整理・保管で13番宗教172点とありますが、具体的にどのようなものか教えていただけますか。

(廣瀬)

目録を今作成中です。

(小川会長)

お札がありましたら是非まとめておいてください。

(小川会長)

他に御意見のある方はいらっしゃいますか。  
無いようですので、次の議題に移ります。

議題(2)『流山の歴史』の書名の変更について、事務局から説明を願います。

(小栗係長)

「流山の歴史の書名の変更」説明

現在執筆中であります『流山の歴史』におきましては平成20年度、21年度の市史編さん審議会において書名が固すぎるのではないかとということで、子どもを惹きつけるような新たな書名を検討するよう御指摘をいただいてまいりました。そこで『ふるさと流山のあゆみ』を新書名として提案いたします。よろしく申し上げます。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました『流山の歴史』の書名の変更について、御意見のある方はいらっしゃいますか。

(小栗係長)

付け加えさせていただくと、つくばエクスプレスができていろいろな所からいろいろな方々が流山にいらしていただいていると思います。その方たちにもふるさととして同じ意識をもっていただけたらということで、この「ふるさと」という文字を入れました。

(大出委員)

以前、山下さんが関わっている時に執筆者の一人と争いがあり、双方それぞれ出版するという事態がありました。それ以降にこの本を流山市史として作るということですね。

(小栗係長)

大出委員がおっしゃっているのは流山市史の通史編Ⅱのことだと思いますが、この本は市民のハンドブック的な存在として計画しています。「流山のむかし」という本が平成元年に作られましたが、売り切れてしまいました。この本の再版という話もありましたが、新たなものを作って理解を深めてもらうということです。流山市史とは別のものとお考えください。

(大出委員)

いわゆる一般書として出されるわけですね。価格、発行部数、ページ数はどのように考えていますか。

(小栗係長)

価格はまだわかりませんが、ページ数は240ページ、500から1000部の発行部数を考えております。

(大出委員)

この本は流山のことを子どもも含めて一般市民にわかりやすくということのようですが、送られてきた資料を見るかぎりでは市史の通史編という印象を受けます。タイトルだけを変えてもだめだと思います。中身が付いていないですね。新しいタイトルにするのであれば中身が付いていくようなタイトルにしなければいけませんね。文章も含めて変えていかないと市民の皆さんに普及していきません。

(小川会長)

どこの市町村でも通史編が売れなくてハンドブック的なものが売れる。

(下津谷委員)

鎌ヶ谷でも売れてしまっていて、またページ数を増やして出しましたがそれもどんどん売れています。この本はどのくらいの年齢を対象に作っているのですか。

(川根)

議題3で御審議いただこうと思っておりますが、中学生以上の市民対象です。まず書名について御審議いただき、それから原稿について御審議いただきたいと思います。

(小川会長)

内容等につきましては後ほどお願いいたします。

(下津谷委員)

タイトルに関しては良いと思います。できるだけアピールできるように考えたのでしょうか。

(小川会長)

それでは書名の変更については、『ふるさと流山のあゆみ』でよろしいでしょうか。内容によっては再考の可能性もあるということで、一応この議題はここで終わりにします。

それでは皆様に「第3章中世」の資料が事前に配布されています。内容についての御意見を賜りたいと思います。

(川根)

それでは「第3章中世」の原稿について、御説明申し上げます。

まず、本日、追加資料として配布させていただきました目次を御覧いただきたいと思います。先程『ふるさと流山のあゆみ』と書名を変更させていただきましたが、「第1章掘り出された流山」から「第8章民俗」まで、8つの章で構成されております。仕様はA5判2段組でございます。1章を約30頁と考えておりますので、おおよそ240頁くらいになるかと考えております。本日、御審議をいただきます「第3章中世」でございますが、執筆者は早稲田大学大学院博士課程に在籍していた植田真平でございます。昨年まで、博物館の臨時職員として勤務しておりました。

「1 院政期・鎌倉時代」「2 南北朝・室町時代」「3 戦国時代」の3つ

の項目から成っております。本文とコラムを合わせまして42頁、資料が3頁でございます。なお、一部の原稿につきましては、考古学的な内容であるため他の者が執筆を担当いたしますので、これにつきましては未執筆となっております。原稿の内容や表現などにつきまして、御審議をよろしくお願いいたします。

(村田委員)

考古学的なこと、以下が聞き取れなかったのですが。

(川根)

お送りしました原稿の表に中世だけの目次がついております。「3 戦国時代」の中の「地下式坑と戦国社会の人々」ですが、発掘調査によって発見されました地下式坑についてですので、考古学を専門とする者が執筆をするということで、まだお示しできないということです。

(大出委員)

執筆者の名前はどこかに入りますか。著作権の問題がありますから。

(川根)

明記する予定です。

(小疇)

他の章の執筆状況はどうなっていますか。

(川根)

「第3章中世」は今日お示ししました。「第5章みりん」については、ほぼ書きあがっています。「第4章江戸幕府と流山」「第6章近現代」の進捗状況につきましては、担当者から御報告させていただきます。

(廣瀬)

4章担当の廣瀬です。4章に関しましては、目次は若干変更がでています。史料選別等は8割がた終了しております。文章執筆については5割から6割ほど終了しております。

(堀野)

6章担当の堀野です。6章につきましては「1 県庁のまち流山」と「3 暮らしを支えた交通」については、ひとまず終了しております。現在は「2 明治時代の村と人々」について、史料の読解を進めている段階です。

(川根)

「第1章掘り出された流山」「第2章古代」「第7章21世紀の流山」「第8章民俗」については着手していません。

(小川会長)

まとめますと、お手元の中世の原稿が最初で、あとは途中で章としては完成していないということです。

内容について、こうしたら良いというような御指摘をいただきたいと思えます。

(山田委員)

トータルで難易度を同じにして書くのは難しいのではないかと。中世に関心のある人は少ない。私自身は面白く読ませてもらったが、中学生には無理であろう。ただし、現代を書くのと違って、難易度を揃えて書くのは難しいのではないかと。

(小川会長)

難易度を揃えて書くのは難しいという御指摘でしたが、他にはいかがでしょうか。

(下津谷委員)

全体としては読みやすい。しかし、中学生・高校生には無理で、大学生でどうかという内容である。

(以下各委員の表現及び改善点の指摘事項を箇条書きする)

- ・1頁上段3行目「讓位」は「位を譲る」など別表現に(清藤委員)
- ・1頁上段14行目「動向」は「動き」など別表現に(清藤委員)
- ・1頁下段9行目「勃発」は「おこった」など別表現に(清藤委員)
- ・2頁上段10行目「反乱分子として追討」なぜ「反乱分子」なのか説明が必要(下津谷委員)
- ・5頁上段17行目「誅殺」は説明が必要、もしくは別表現に(村田委員)
- ・6頁上段2行目「庶流」は説明が必要、もしくは別表現に(村田委員)
- ・6頁上段6行目「惣領家」は説明が必要、もしくは別表現に(村田委員)
- ・7頁下段8行目「埋納された人骨」という表現は正しいのか(下津谷委員)

- ・ 9 頁浄土宗から日蓮宗への改宗に関して、それを示すものとして鎌ヶ谷市万福寺の板碑の変化に触れてはどうか（下津谷委員）
- ・ 10 頁上段 4 行目「杳として」は別表現に（村田委員）
- ・ 15 頁下段 19 行目本文中の史料引用は避けるべき（大出委員）
- ・ 18 頁上段 5・6 行目「如来像や菩薩像などが彫られたもの、仏を表す梵字が彫られたもの、念仏や題目が彫られたもの」であろうが、何のことかわからないので、宗派と関連づけたほうが良い（村田委員）
- ・ 19 頁上段 7 行目「逆修」の意味がわからないのでは（村田委員）
- ・ 33 頁上段 13 行目「戦国のキャスティングボード」は別表現に（村田委員）
- ・ 34 頁上段 3 行目「近くの桐ヶ谷には、田島刑部少輔（高城氏家臣、伝前ヶ崎城主）の妹で平本定虎の妻の墓があるといわれています」では、どこかわからない（村田委員）
- ・ 単語について、項目の終わりに説明を加えたらどうか（山田委員）
- ・ 『鎌ヶ谷のあゆみ』を参考にしたらよい（下津谷委員）
- ・ 地名が多く出るが、どこなのかイメージできない、中学生や新しい市民にとっても地図を適宜載せて、取り上げた事項と場所がイメージできるようにすべき（小疇委員）
- ・ 人名と地名の初出にはルビが必要（小川会長）
- ・ コラムはおもしろいものに、なぞなぞ形式にするなど工夫が必要（大出委員）
- ・ 中世を研究する人が読めばわかるが、このままでは一般に普及しない（大出委員）
- ・ 原稿を部外者、例えば学校の先生・博物館友の会などに一度読んでもらってはどうか（村田委員）
- ・ 源頼朝や足利尊氏などを登場させて、大きな歴史の流れとの関係をイメージしやすくしている点は評価できる（村田委員）
- ・ 『鎌ヶ谷のあゆみ』は事務局で全部直したが、難易度を揃えるためにある程度やらないと普及本として成り立たない（村田委員）
- ・ 地図を要所々々に入れないと、わからない（村田委員）
- ・ 地図は地形を意識すべき（村田委員）
- ・ 歴史用語を割愛するわけにはいかないが『鎌ヶ谷のあゆみ』くらいの文体にして、語りかけるようなものにしたらどうか（小川会長）

- ・ コラムの工夫を、コラムがあゆみそのもの、せめて中学高学年から高校生ぐらいが一つの章を通して読めるぐらいのものを（小川会長）
- ・ 「です、ます」調にしてソフトにしようとは伺えるが、専門用語以外でも工夫すればわかりやすくなるはず（清藤委員）
- ・ 1頁あたりの文字数が多い。文字の大きさも小さい（下津谷委員）
- ・ タイトルや見出しを工夫すべき（大出委員）
- ・ 修正は執筆者本人に依頼すべき（大出委員）
- ・ 買っていただける本にするのが編集者の手腕にかかっている、小見出しを変えるだけでも違ってくる（大出委員）
- ・ 注釈もなしで、すらすらと読める本にしていきたい（大出委員）
- ・ 東小学校あたりでは高市・花野井などの苗字が出てくると、身近に感じる。第1章は遺跡ばかり、ふるさと流山の庶民がどんな生活をしてきたのか等の内容を盛り込んでほしい、難しいようであれば近隣の事例でも良い（村田委員）
- ・ 2段組では読みにくいという意見がある（小川会長）
- ・ 自然や民俗について取り上げないのか（小川会長）
- ・ 自然や民俗については、章を立てる必要はない、人間が出てこないと一般の関心は得られない（大出委員）
- ・ 難易度を統一するために、原稿を通して修正する必要があるのでは（山田委員）

（下津谷委員）

原稿に線が引いてある箇所があるが、どういう意味でしょうか。

（川根）

線が引いてある箇所は、事務局が内容について疑問をもった箇所です。

（小栗係長）

先生方の貴重な御指摘ありがとうございます。真摯に受け止めて編集していきたいと思えます。

（小川会長）

「第8章民俗」は最初から入っていましたか

（川根）

自然地理については、当初、市の概要として章を立てていましたが、削除しました。また、民俗については平成24年4月時点の目次では第9章として組み込んであります。

会長の尽力をお願いして民俗も組み込んでいきたいが、目次を精査して次回の審議会でお示しいたします。

(大出委員)

自然地理は入れない、民俗も入れない、面白い所を大きく。例えば一茶とか近藤勇とか、他地域の人が知っていることは大きくするなどして、大小をつける。皆さんに読んでいただくことを常に念頭において、作っていただきたい。

(川根)

次回に御指摘いただいた点を踏まえながら、目次をお示しいたします。

(小川会長)

他に御意見はいかがでしょうか。

(山田委員)

最終的には難易度を揃えるため、通して誰かにやってもらうということを、事務局は考えていますか。

(大出委員)

リライトを含めてですね。

(山田委員)

鎌ヶ谷でおやりになったと思うが、そうしないと難易度を揃えるのは無理ではないでしょうか。

(川根)

確かに原稿を執筆していて、難易度が執筆者によって異なると感じています。現段階では方法は不明ですが、原稿が出揃った段階で、難易度を揃える方法を検討していきたいと思います。

(大出委員)

書いていない執筆者には『鎌ヶ谷のあゆみ』をサンプルとして読んでいただき、書いてしまった執筆者にもいろいろな意見が出たのでサンプルを読んでいただいて書き直しをお願いするのが良い方法だと思います。

(小川会長)

結論は、ただいまの意見に収斂するのではないのでしょうか。

(鈴木館長)

委員からいろいろな御指摘や御提案をいただきました。これらを踏まえまして、読んでいただける本を作っていくように方法を考えてまいります。

(小川会長)

これで終了することにいたしまして、事務局から、その他について何かございますか。

(小栗係長)

次回の開催予定をお示ししたいのですが、まだ計画が立っておりませんので、また御連絡を差し上げます。

(小川会長)

事務局から新たに見直しをして皆様に御通知を差し上げますので、御了解をお願いいたします。御討議いただきまして道しるべができましたので、今後とも『ふるさと流山のあゆみ』について御支援をお願いいたします。

これにて平成24年度第1回流山市史編さん審議会を終了といたします。

(須田次長)

皆様、長時間の御審議お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上をもちまして、平成24年度第1回流山市史編さん審議会を閉会させていただきます。

以上